

ムネダカシモフリコマツキの形態について

大平仁夫・有本久之

Notes on the Morphological Structure of *Actenicerus ohbayashii* (Coleoptera, Elateridae) from Japan

Hitoo ÔHIRA

Kitsuneyama 6-4, Maiki-chô, Okazaki, 444-35 Japan

and

Hisayuki ARIMOTO

Nishikagaya-chô 4-3-5-1211, Suminoe-ku, Osaka, 559 Japan

**Abstract** *Actenicerus ohbayashii* ÔHIRA, 1964, was originally described from Hirugano in Gifu-ken, Honshu, based on the female holotype. Recently, ARIMOTO had an opportunity to find some specimens of this species at Nishiyahata-kôgen in Hiroshima-ken, Honshu. Some important structures examined by SEM-images (Fig. 2) are described for facilitating recognition of this species in the ctenicerine genus *Actenicerus*.

ムネダカシモフリコマツキ *Actenicerus ohbayashii* は、筆者の一人である大平が、岐阜県蛭ヶ野で故大林一夫氏が採集 (10-VI-1953) された 1 雌個体にもとづき、1964 年に新種として記載した種である。このたび、本種の雄個体が見いだされ、雌雄の形態について調査することができたので報告する。

分布・生態について

本種は、原記載以降、岸井 (1984) が三重県湯ノ山から 1 雄個体を記録するまで、分布についての再記録がなく、しかも雄個体の記録はこれが最初であった。その後、有本 (1991) は、広島県八幡高原で採集された雄個体を報告している。また、有本は、岡山県の渡辺昭彦氏の協力で、1991 年 6 月に広島県西八幡高原で本種の雌雄を採集した。ここで記録する雌雄は、そのときの採集品にもとづくものである。

西八幡高原で本種の成虫が見いだされたのは湿地の中で、ミズゴケ類の生えた湿地の上を低く飛ぶのが観察されたが、周辺の雑木林を打網しても成虫はまったく採集できず、生息範囲はかなり限定されているように思われた。本属の幼虫は、一般に湿気が多い土壌や腐葉土中に生息することが知られているが、このような多湿地に成虫が見いだされる例はなく、幼虫との関連性を解明されることが期待される。

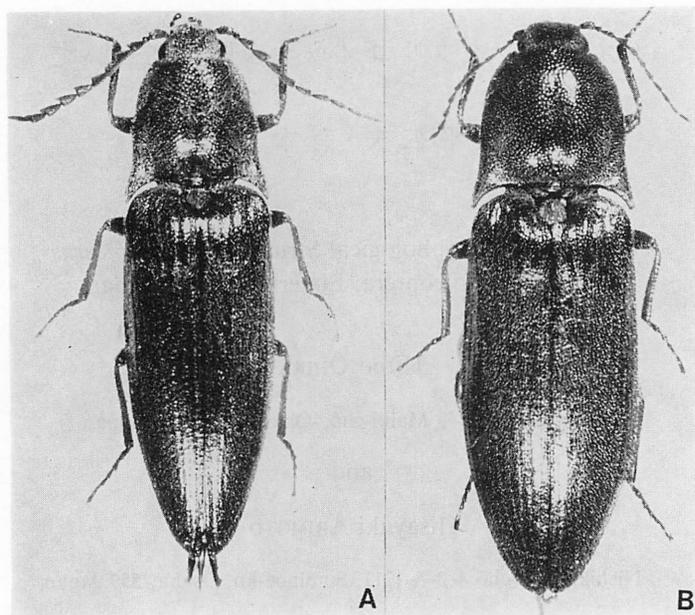


Fig. 1. Male (A) and female (B) of *Actenicerus ohbayashii* ÔHIRA.

### 成虫の一般形態

雄・体長は 14~15 mm. 体は幅広く紡錘状，黒色で鈍い真鍮色の金属光沢を有する．全面に淡黄灰色毛をいちように生じ，毛による斑紋を生じない．触角は黒色，肢は黒褐色である．

頭部の前頭部は凹状，前頭横隆線の前縁部は消失する．小顎肢節の末節は短大で矩形状である (Fig. 2 H). 触角は比較的短く，末端は前胸背板の後角より末端 1 節ほど後方に伸長する (Fig. 1 A). 第 2 節は短小で球状，第 3 節から鋸歯状を呈し，第 3 節は第 4 節よりわずかに長い (Fig. 2 K). 第 11 節は細長く，途中で顕著にくびれる (Fig. 2 L のノ印).

前胸背板は梯形状，背面は膨隆し，円形の点刻をやや密に分布するが，正中あたりでは点刻が小型でまばらである (Fig. 2 G). また，正中部の後半は，多少とも凹溝状を呈する．小盾板は扁平で舌状，末端は鈍くとがる．上翅の条線は円形の点刻を列状にそなえ，間室部は不規則な横しわ状である．

交尾器の外形は図示したようで，中央突起は細長くて両側は平行．側突起の末端部は三角形で，外角は後外方へ鋭くとがる (Fig. 2 I-J).

雌は雄に比べて短大，両側はより平行である．触角は短く，末端は前胸背板の後角に達しない (Fig. 1 B). また，第 3 節から強く鋸歯状を呈するが，雄よりやや弱い (Fig. 2 E). 産卵管の片方の末端部は図示したようで，角質化し，stylus はよく発達する (Fig. 2 D). 内部生殖器の袋内には，小判形をした 1 枚の角質化した板 (Fig. 2 C) と，く字形をしたひだの多い 1 枚の板 (Fig. 2 A; B はその一部を拡大) を有する．

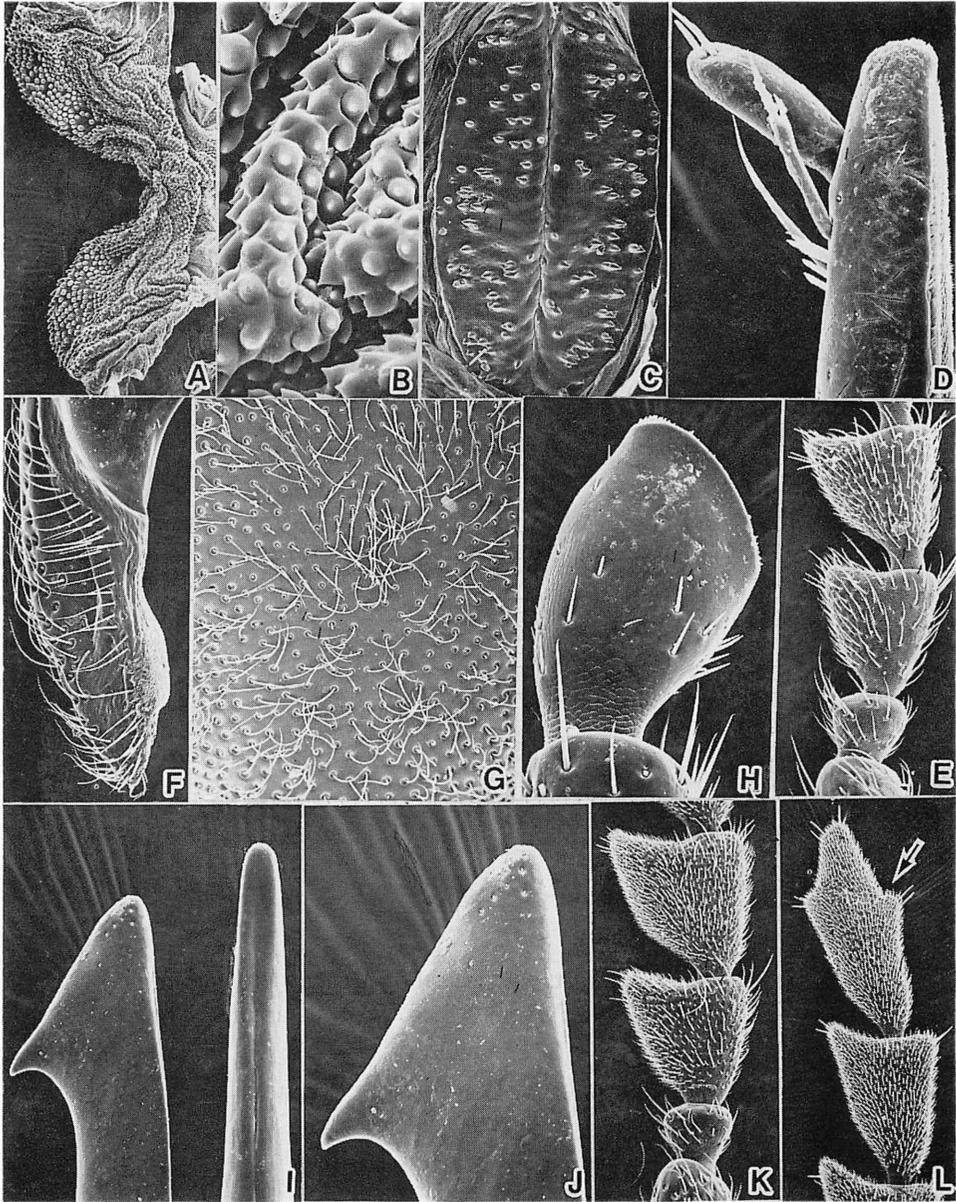


Fig. 2. *Actenicerus ohbayashii* ÔHIRA, male (excluding A-E which are of a female) (Nishiyahata-kôgen in Hiroshima-ken); A, sclerotized plate in bursa copulatrix; B, same (enlarged); C, another plate in bursa copulatrix; D, ovipositor; E, 2nd to 4th segments of right antenna; F, prosternal process, lateral aspect; G, some punctures on the medio-dorsal surface of pronotum; H, apical segment of maxillary palpus; I, apical portion of aedeagus, dorsal aspect; J, same, lateral lobe (enlarged); K, 2nd to 4th segments of right antenna; L, 10th and 11th segments of right antenna.

## 調 査 標 本

4 ♂♂, 4 ♀♀, 広島県山県郡西八幡, 1-VI-1991, 有本久之採集.

## そ の 他

前述のように, 本種は生息場所が湿地に限られていること, 体が短大で, 触角が第3節から強く鋸歯状を呈すること, 上翅には毛による斑紋をもたないことなど, 本属の種のうちでもやや異質な位置にあると思われるが, 雌内部生殖器や産卵管などの形態にはとくに異質性がみられない. 系統的な考察は, 幼虫が明らかになった段階で改めて検討することにするが, 成虫の一般形態から判断したところでは, 本種はヨーロッパに広く分布する *Actenicerus sjællandicus* にもっとも近縁のものらしく, 日本には遺存的な種として残っている大陸系の流れであろうと考えられる.

## 引 用 文 献

- 有本久之, 1991. 広島県におけるムネダシモフリコメツキの記録. 甲虫ニュース, (93): 7.  
 岸井 尚, 1984. 未記録および珍しいコメツキムシ若干について. 月刊むし, (166): 21-23.  
 ÔHIRA, H., 1964. New or little-known Elateridae from Japan. *Bull. Japan ent. Acad.*, 1: 13-14.

*Elytra, Tokyo*, 19 (2): 204, November 15, 1991

## 日光におけるルリナガクチキの採集例

笠 原 須 磨 生

KASAHARA, S.: A Collecting Record of *Melandrya shimoyamai*  
(Melandryidae) from Nikkô, Central Japan

ルリナガクチキ *Melandrya shimoyamai* HAYASHI, 1960 は, 青森県温川から記載された, 群青光沢のある大形の美しいナガクチキである.\* 稀種とされ,\*\* 記録も少ないと思われるので, いささか古いことではあるが, 筆者が日光で採集したものをここに記録しておく.

1 頭, 栃木県日光市奥日光竜頭滝附近, 20-VI-1973.

この個体は, 体長 13.5 mm; 体幅 4.8 mm. 体下面や付節を除く脚も青色を帯びる. 樹種はさだかでないが広葉樹の倒木上にいたもので, 弁当を使おうとして腰をおろしたときに見つけたことを想い出す.

\* HAYASHI, M., 1960, *Ent. Rev. Japan*, 11: 45-46.

\*\* 佐々治寛之, 1985, ナガクチキムシ科. 黒澤良彦ほか(編著), 原色日本甲虫図鑑, 3: 370-372. 保育社, 大阪.